別記第１号様式

# 平成２０年度　事前評価調書

機 関 名　　アイヌ民族文化研究センター
研究責任者　古原敏弘
研究担当者　古原敏弘

| 課題番号 | ア文研一般2001 | 研究課題名 | 道北地域のアイヌ民族資料に関する調査研究 |
|---|---|---|---|
| 課題担当者 | 2　人 | | |

| 共同研究機関（協力機関） | 研究区分 | 研究 | 試験 | 調査 | 分析 | 各種施策等との関連性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | （新･北海道総合計画）<br>基本構想編　第3章政策展開の基本方向<br>人々が互いに尊重しあう社会づくり<br>アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重される社会の実現 |

| 研究期間及び所要見込額（千円） | 21年度～23年度 | 初年度 | 次年度 | 次々年度以降 | 全体所要額 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 150<br>(　150　) | 200<br>(　200　) | 150<br>(　150　) | 500<br>(一財　500　) |

**研究の概要**

○研究背景
当センターでは、北海道内のアイヌ資料の所在、内容調査を行ってきており、既に道南においては森町及び松前町所蔵の「ピリカ会」資料を、前記２町以外の渡島管内と檜山管内の市町村のアイヌ文化関連資料の調査を「道南地域のアイヌ民族資料に関する調査研究」として実施してきた。また、その中で、釧路・十勝といった道東、札幌を中心とする道央地域や胆振・日高地域については、北海道教育委員会や各市町村博物館などの刊行したアイヌ民具資料目録などを整理し、資料の所在の確認を行ってきた。しかし、道北地域については、目録等の刊行も少なく、資料の所在も明らかになっていない。そのため資料データの空白地域を埋めるための資料の所在調査が必要となっている。

・研究のニーズ（重要性・緊急性）
1990年代からの海外、特にロシア国内の博物館には多くのサハリンアイヌの資料が収蔵されていることが確認された。しかし、道内ではサハリンに隣接する道北の資料の所在について明らかになっていないことから、比較研究などの基礎的資料の整備が求められている。

・道が取り組む必要性
道北の各市町村の所蔵するアイヌ文化関連資料の所在を明らかにする基礎的な研究であるとともに、北海道内各地に所在するアイヌ文化関係関係資料の総合的な目録作成の一端として道立の研究機関が行う必要がある。

・関係機関等との連携・役割分担（国等の研究機関、民間企業との連携・役割分担）
資料と関連する市町村の関係機関等と資料調査や内容分析について連携を図り行う。

・これまでの研究成果・知見、外部機関の知見等の活用の考え方
すでに蓄積のある海外資料調査の成果や、平成17-19年度に行われた文部科学省の科学研究費補助金研究「北海道内の主要アイヌ資料の再検討」での収集データを、調査項目の設定や内容検討等の比較研究資料として活用する。

○研究目的
アイヌ文化研究において特に資料や研究が乏しいとされてきた道北(宗谷、留萌北部、網走北部、上川北部)に関するアイヌ民族資料の所在調査と内容分析を行い、これらの地域におけるアイヌの文化と歴史を明らかにする。

○研究内容（研究目的及び研究内容の適切性）
・生活技術分野の民族資料調査に、歴史分野の文書資料調査を加え、調査の展開によっては言語分野も分析に加え、総合的・学際的なアイヌ文化に関する基礎資料のデータ収集と分析を図る。

○年次別目標（研究計画の適切性）
・資料データの蓄積の少ない地域であるが、調査対象となる施設等も多くないこと、また、目標を所在の確認等の基礎資料の収集・整備に据えていることから年に２管内調査は可能であり、期間、経費とも妥当である。

| 主な目標（項　目） | 年　次　等 |
|---|---|
| ・宗谷、網走管内の資料の所在調査 | ・平成21年度 |
| ・留萌、上川管内の資料の所在調査 | ・平成22年度 |
| ・補足調査・内容分析、とりまとめ | ・平成23年度 |

**成果の活用策**

○成果の活用策（成果の活用の可能性）
アイヌ史、地域史の研究・学習の資料として活用することが期待できる。
当センターにおいて、アイヌ民具資料情報のデータベースを作成し、アイヌ文化に関する本道とサハリンの比較研究の基礎資料として一般に公開・提供を図る。

| 【個別評価】a・b・c | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 重要性・緊急性 | 【 a 】 | 研究目的及び研究内容の適切性 | 【 a 】 |
| | 道が取り組む必要性 | 【 a 】 | 研究計画の適切性 | 【 a 】 |
| | 国等の研究機関、民間企業との連携・役割分担 | 【 a 】 | 成果の活用の可能性 | 【 a 】 |

| 【自己評価】Ⓐ・B・C | 【説　明】<br>本課題は、これまで調査実績の少ない地域での調査研究であり、アイヌ文化をより明らかにするために、新たな知見が期待でき調査研究に値する課題である。 |
|---|---|
| 【総合評価】Ⓐ・B・C | 【意　見】<br>本研究は、アイヌの文化と歴史を明らかにするため、道北地域におけるアイヌ民族資料の所在調査と分析を行う重要な研究課題であり、アイヌ史、地域史の研究・学習の資料としてのみならず、サハリンのアイヌ文化との比較研究における基礎資料としての活用も期待されることから、優先的に取り組む必要がある。 |